

◇ 医療・看護・介護・福祉の役立つ情報、元気が出る！医労連のホームページをご覧ください

愛知県医労連2016秋闘速報5

発行 2016年9月5日 愛知県医労連・西尾副委員長
連絡先 〒456-0006 名古屋市熱田区沢下町9-3労働会館本館403
TEL052-883-6955 FAX052-883-6956 E-mail irouren@roren.net

9/3 いのちまもるあいちキャラバンスタート 長時間労働・夜勤交替制労働の規制を 『夜勤改善署名』で改善せまろう



【写真 開会あいさつする西野ルミ子委員長】

愛知県医労連は9月3日キャラバンスタート行動にあわせ、「第5回あいち看護要求実現交流集会」を開催しました。12組織35名が参加し(未加盟病院から1名参加)、労働経済ジャーナリストの小林美希さんを講師に「いま『看護の質』を問う～患者の命を守るために私たちができること～」の講演を受けて職場実態や労働・看護の改善の取り組みについてグループディスカッションを行いました。集会終了後は金山駅前にて署名宣伝行動を元気に行いました。しんぶん赤旗が取材しました。

看護の現状を直視し、制度の矛盾を知り世論を味方に温もりのある看護を

講師の小林美希氏は、「在院日数短縮化と在宅化が急速に政策的に推進される中で、看護現場の人手不足が深刻となり、看護師の負担は重くなり『看護の質』が劣化し、看護師にとってのやりがいと奪われている。看護師が良いケアをするには限界があり、



小林美希さん

看護師のやりがいと奪われている。病院は姥捨て山のようになり、患者や家族にとっての安心と安全が遠のいている。」と全国の看護師や家族から取材して聞いた実態を浮き彫りにしました。同氏は「ILOのように最低基準を引き上げる努力を。夜勤労働者の週労働時間は少なくても良いはず。労働組合と仲間がいることは大きな力になる。世論を味方につけ、患者に手を当て温もりを持つ『看護』。命の源を注ぎ込む『看護』ができる環境になることを願っている。政治や行政は必ず変わる。」と展望が持てる講演でした。



グループ討論の様子

新署名「夜勤交替制労働の改善署名」で具体的な交替制を実現させよう

冒頭に西野ルミ子委員長が、「看護現場の人材不足が看護の質の低下につながっている。学習と世論に訴える運動を看護師が先頭に立ってがんばっていこう」とあいさつしました。秋からの愛知県医労連における夜勤改善・大幅増員闘争について林書記長から「問題提起」を行い、「健康で人間らしく働くために質の高い看護を提供するために、今こそ『職場の力』で大幅増員・夜勤改善に踏み出そう」訴えました。秋闘の重点課題として①職場の必要人員要求を確立し、統一要求と併せて提出し、ストを背景に団体交渉を ②新たな夜勤改善署名を必ず組合員1人10筆取りきろう ③現場の事態を明らかにし、看護実態を可視化し改善を求める「看護・介護黒書」に取り組み、リアルな切実な現場の実態を明らかにしよう」と問題提起しました。



西野委員長

講演のあと、4グループに分かれてグループワークを行い、職場の実態や労働改善の取り組みを交流しました。「新人看護師が23時、24時まで仕事をしている」など劣悪な実態が浮き彫りになりました。「患者さんの笑顔がみたい」いま改めてよりよいケアをめざした看護が行いたい、改善のために組合として頑張っていこうと話題が続き盛り上がりました。



林書記長

集会最後に西尾副委員長が「小林さんの書籍『看護の質』は



克明に実態や問題が示されおり活字の力は大きい。質の高いケアには適切な労働環境改善が必要。黒書の実態を突き付け、国会採択をめざし署名を広げ夜勤者の労働時間規制を実現しよう」と閉会のあいさつを行いました。

サイン会の様子

いのちまもるキャラバンスタート宣伝 in 金山 元気に 宣伝行動しました

看護集会の後は、金山駅前にて署名宣伝行動に取り組みました。講師の小林美希さんも参加をして「夜勤回数の制限」「勤務間のインターバル確保」「一人夜勤の解消」の改善を求めて大きくアピールし、タクシーの運転手さんが車から降りてきて「頑張ってるな」とエールが送られるなど115筆の協力があり元気なスタートを切りました。

署名の様子



【写真 金山駅前小林美希さんと一緒に記念写真】

参加組織 12 組織35名

全医労 3 名（豊橋 1 東尾張 1 地区 1）、全 JCHO 中京 1 名、国共東海 1 名、民医連 13 名（南 4 みなと 3 名南会 2 北 3 事務局 1）、自治労連 9 名（名古屋 2 豊橋 6 新城 1）、個人組合 1、未加盟 1、書記局 5、講師 1

看護師増員・待遇改善を

2016
9.6
あ

愛知医労連がキャラバン

安全・安心の医療・介護の実現と、夜勤改善・大幅増員を求め、愛知県内のキャラバン行動（愛知県医療介護福祉労働組合連合会主催）が3日夕、名古屋市熱田区の金山総合駅前でスタートしました。

日本医療労働組合連合会の「いのちをまもる全国一斉地域キャラバン行動」に呼応したもので、11月末まで、国会請願署名（県内目標12万人以上）や宣伝、地方議会への請願・陳情、医療関係団体への訪問・要請に取り組み予定です。

残暑の中、白衣を着た組合員20人が参加。林信悟書記長がマイクを持ち、「看護師不足による長時間勤務

など過酷な労働条件のために離職する看護師が後を絶ちません。国民のいのちと健康を守るためには、国の医療予算を増やし、職員を大幅に増やす必要があります。」「安倍自公政権は社会保障を大幅に切り下げ、国民に重い負担を押しつけています。力

をあわせて阻止しましょう」と呼びかけました。

通行人が次々に足を止め署名していきま

す。友人が看護師だという篠田菜穂さん(38)は、「友人も夜勤が多く、慢性的に寝不足で疲れが取れない、疲れで医療ミスを起こさな

いかに心配と言っています。

す。4月に心臓病で1カ月入院した女性(66)は「深夜に何人もからチースコールが鳴り、少ない夜勤の看護士さんが走り回って

いました。これから高齢者が増えて看護師はもっと多く必要です。待遇改善をしないと増えないです」と話し署名しました。



看護師の大幅増員を求める署名に応じる人たち＝3日、名古屋市熱田区・金山総合駅前